
電波女と青春男～銀色の青春～

頭脳砂漠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

電波女と青春男～銀色の青春～

【Zマーク】

Z7958Y

【作者名】

頭脳砂漠

【あらすじ】

これは、電波女と青春男の設定改変物語です。

真が「ピー」だったり、エリオが「ピー」だったり。

まあ要するに「ピー」が「ピー」だから「ピー」は「ピー」っていう……訳言つと、よく分かんねえ！

銀色

青春ポイントの話をしよう。

青春ポイントの一例を挙げる。一度の行動による最高獲得点数は5。

休み時間に女子と他愛もない話をする。

学校帰りに男友達と飯を食う。

学生生活を真っ当していれば大抵、日常的に加算されるポイント。これは1点。

でもまあ、青春ポイントは放つておくと日々減退していく。
後は……原作を。作者がめんどいと言つて聞かないんだ。『ごめんよ。』
言えることは、1点を取れん奴は5点の片鱗さえ見つけられない。

思春期も資本社会の中でしか育まない、ということだ。

要領と器量に恵まれた奴は、高校3年間で200点以上の貯金稼ぐことさえ可能だ。

その貯金は進路、大学進学や就職先では大した価値觀を成さない。
でも死ぬ間際の満足感が、普通の人とは天と地の差を生む（らしい）。

俺にしたら、その天と地の差は紙一重だと思つんだけど。

人生の『過程』はその『結末』のためにあるのだから、如何に高校生活が重要か分かるだろう。

と、

……まあ、暇だったから即興で定義してみた。

両手が動いてるのに脳味噌とは隔たりを感じていたので、つい頭を動かしてみた。

それより、段ボールにキュッと私物を詰めることに快感を伴つてゐる俺は何フェチなんだろ。

整頓フェチ？上下運動マニア？長方形信望者？

「まー、人間はほんと分類つづーの、ジャンル分け？が好きだよなあ」

自分の思考に、自前の口で突つ込みを入れながら鼻歌を演奏して田玉はテレビを一瞥、両手はせつせと荷造り。段々物が失われて寂しくなる自室の風景と対照的に俺は浮足立つていた。

寝不足気味ではあるけれど、精神の高揚に引きずられて総合的にはぜつこーちゃん。

頭の中はミニ真カーバルしてそうだった。

学園物RPGの主人公がよく辿る、両親が海外赴任 高校卒業まであと一年の息子は叔母の家へ預けられる 転校の権利を得てからようやく3日が経過。

引っ越しまで残り4日。

垂涎的な俺は今、人生の絶頂を迎えた気分。

迎えている春休みに短いと文句を愚痴らなかつたのは今年が初めてではなかろうか。

いやー、新学期まちどーしー。まじで。

転校先は都会。田舎とは違つて機械的なんだろう。

今までの高校生活は青春ポイントで査定してしまえば、マ……正直に言えばプラスだが……。

なぜか。俺はよく女子に話しかけられる。毎日述べ15人ほどに。しかも全員、美少女だつたし。正直あれはかなり嬉しかったね。もっと話しかけてこないかと思つてた。

だって俺の髪は

色 チナ

なんだから。

■
銀 ブラ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7958y/>

電波女と青春男～銀色の青春～

2011年11月23日18時49分発行